

Title	雑報
Author(s)	
Citation	地球 (1926), 6(3): 211-223
Issue Date	1926-09-01
URL	http://hdl.handle.net/2433/183150
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

町の使命のごとき、其の好標である。地方地理學研究者の好侶伴として推薦する。(藤田)

○天氣と天氣豫報

五年七月發行 定價壹圓貳拾錢 提問百樹著 古今書院發行 大正十

中央氣象臺技師梶岡氏の著である、忙中の閑をのすんで極めて平易に通俗的に天氣と其豫報に關する説明を試みられたものである、陣風線といふ近頃用ひられる言葉に對して著者は不連續線といふ言葉をを用ひて低氣壓との關係をのべておられる、通俗的といつても専門家の本である、勿論六ヶ敷いところがある骨がある、氣象を教授する人に尤もよい參考書として一本をすゝめる。(藤田)

○登山家山嶽地圖

東京神田今川小路二ノ五九段書房地

圖研究會發行

一、立山方面及其山頂。二、白馬嶽方面及其山頂。三、靈山身延諸坊附近、以下月刊

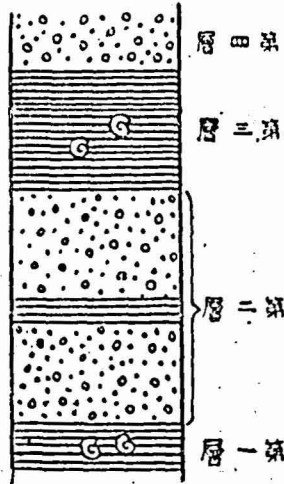
會員募集で一ヶ年に十二部、四圓八拾錢で頒布する、既刊の一は登山案内を附けた十萬分一及二萬分一の地形圖、二は同様に二萬五千萬分一と十萬分一の地形圖で、詳密正確なことに於て近來稀に見る山岳圖である、この種の旅行案内圖が弘く利用される程に、日本一般の旅行家が地圖を見る眼識の上達せんことを祈るもの豈評論者一人のみならんや。(F生)

雜報

○西宮、香櫨園附近、洪積層と其の化石

兵庫縣西

宮市の西方、香櫨園から三町許り西にある大社村字森具では洪積丘陵地の端を切り探つて住宅地となしつゝある。この切り取りのため約十五米もあらうと思はれる断崖が出来て、次の如き地層を現はしてゐる。



第一第二層は含化石層
第三第四層は無化石層

第一層は青綠色粘土層、第二層は青綠粘土の薄層を夾める花崗質白褐色砂礫層、約十米位、第三層は五米内外の青綠粘土層、第四層は砂礫層である。走向北三七度乃至六十度東、傾斜東南に五度乃至一〇度。余は昨冬、春本、田久保、原口三村の諸氏と共に、第一層、第三層から次の介化石を採集した。

第一層、セタシム Corbicula cf. sandai Reinb (夥多)

ニナ Melania? sp., モノアラ貝 *Lymanaea?* sp., ドブ
 シ *Sphaerium?* sp.,

第三層、ホタテ貝 *Pecten* sp., 満月貝 *Lucina?* sp., シ

ヲトリ貝 *Macoma* sp.(多), サクラ貝 *Tellina* sp.(多),

チヨノハナ貝 *Raeta pallucida* Desh (夥多), キツネ

貝 *Lima?* sp., アカ貝 *Arca* sp., ヲノロ貝 *Nassa?*

sp., タノ貝 *Natica* sp., 小皿介 *Acmea* sp., ホロ貝

Dolium sp., ヲノ類等

黒田氏によれば第一層中のセタシヤミは琵琶湖現生のものより古風であるとのこと。而して第一層中の貝類は極めて夥多なるセタシヤミを初めとして淡水産であり、第三層中の貝類は入江に棲息すべき種類である。尙、第一層の貝は石灰質介殻を完全に保存せるに、第三層の貝類は全く完全にカストのみである。兎に角、現今の瀬戸内海岸から僅に一坪内外を距て、高さ一〇米前後の地に淡水性の地層があり、それより約一〇米の無化石砂礫層を隔て、明かに海成の地層がある、こゝは注意すべきことである。恐らくは初め淡水湖があつたがある原因のため海浸があつて海成層を堆積したものに違ひない。この含化石層は附近に相當の廣がりなもつらしく、小さい不整合があつて上部の地層に被はれる。含化石層は古期洪積層で、不整合線以上の地層は新期洪積層とすべきであらう(上治)

○ノリウツギの皮 厚木はノリノキ、ニヘ、トロロノキ又はサビタと稱せらる、我邦沿岸温帯の各地の山野に汎く繁

茂する落葉灌木である、幹の高さ七八尺より丈餘に達する、葉は對生し、夏期梢頭に白色の花を開く、この木の幹や枝の韌皮部にかライタンと稱する糊がある、其量は皮の一割内外に達する、木糊と稱せられ、和紙の手漉品、機械漉品等に用ひられる、土佐では移入不足の際の補充として山野の空地に之を栽培するものがある。北海道、渡島後志膽振等より年々に多量に産出して居る、大正十四年に四十萬貫約二萬樽と稱せられ價格五十萬圓の多きに達した、函館に其問屋がある、大坂、神戸、土佐、支那等へ輸送してゐる。

○本邦産櫓材の英國行

本邦産櫓材は久敷以前より英國に輸出せらる、殊に歐洲大戰直後は英國へ北海道産櫓丸太の輸入旺盛なりしが、漸次品質の低下につれ丸太にて輸入するは危険なりとし近來は櫓板として英國に送くるもの多し、主として北海道産に限られ内地産は品質上之に匹敵すること能はず、櫓板は厚さ一時、幅平均九吋乃至十吋、長さ平均九呎乃至十呎のものにして古代の櫓板といふ風のもの也、目下一平方呎の相場ロンドンにて六志九片なり、大體用途としては薄物は家具製造に、厚物は建築に使用せらる、尙櫓板の外細板及角材(小割)の需要相當にあり、細板は厚さ一時幅三吋以上長六呎以上、幅四吋のものにて六志の相場あり、小割は四吋平方角五吋平方角のものの需要多く主として柱物の製造に用ひらるこいふ。

○威鏡北道勒山鐵山の砒毒砂

會寧郡八乙面勒山鐵山は會寧の東南東四里にある。砒礦を採掘し亞砒酸を製造し

て居る。砒鐵をなす礦物は砒毒砂 *Pyrite* である。鐵床は花崗岩が古生層中に噴起し、花崗岩の縁邊相をなす閃綠岩中に鐵脈、鐵染及び鐵筒となつて居る。鐵床中から出る金屬礦物類は砒毒砂の外黃銅鐵、磁鐵鐵、コバルト華 *Cobaltite*、孔雀石、褐鐵鐵、砒華 *Arsenolite* で猶ほ鐵石分析の結果によると亞鉛、アンチモニー及びニッケルが含まれて居る、これは閃亞鉛鐵、輝安鐵等として存在するものであらう。脈石としては石英を主とし方解石、角閃石もある。

砒毒砂は完全な結晶面を有するもの非常に少く、三四個の微小結晶につき鑑識した所によると $m(110)$ の (101) と思はる、面が發達し、屋根形を形作つて居る。色銀白、條痕暗灰色、金屬光澤を帶び、空氣中に曝して置くと錆びて漸次暗灰色を呈する。一見毒砂に類似するも、鐵石中より摘出したものを分析した結果によると毒砂に比べて砒素の量が大變多い。分析の結果は次の如くである。

As	65.15
Fe	26.04
S	2.28
Zn	0.27
Co	1.48
Au	0.00140
Ag	0.00052
脈石	3.72
計	98.04192

之等の中主要元素を組合せて見ると大部分が砒毒砂で、其に毒砂と輝コバルト鐵の微量が混在して居るらしく思はれる。本鐵山の砒鐵は殆んどその全部が砒毒砂であるから、砒素の量は一般の砒鐵に比して高く、上鐵の平均五二%下鐵でさへ三二%に達して居る。然も最上鐵に至つては時に六五%に

及ぶ。砒素分に伴うて著しいのは金とコバルトの含有量は是等は砒素分の増減に正比例して増減し、最上鐵には十萬分の五前後の金と百分の二以上のコバルトを含む。ニッケルは大槪痕跡であるが或る分析の結果では千分率のものがあつた。本鐵床で目下の所有利な點は砒鐵として砒素分が非常に多いこと、それに伴うて金やコバルトを多く含むことにある。然し亞砒酸採收の容易なのに引換へ金やコバルトを抽出することには相當手数を要すること、考へられる。(朝鮮鐵業會議八卷四號所載市村理學士の「鞍山鐵山の砒鐵々床に就て」に據る)。

○英國の陶業

英國製陶器は世界市場にて卓越せる地位を維持す、是れ其品質良好にして堅牢なるに因る、英國陶業は磁器土器衛生器、瓦斯、電磁等あらゆる種類あり一口にスタッフォード州の陶業と稱し中心製作地をストーク、オントレント市とす、六萬五千人以上の職工之に従事し其中五萬五千人はスタッフォード州の陶業に従ふ、十七世紀前半頃は英國農家の副業たるに止まり、粗悪なるものを製出するに止まりしが、今日にては世界第一流の陶業にして内地の需要のみならず世界各地へ輸出せらる、其の貿易高合計一九二三年には三、三九九、〇〇〇磅、一九二〇年に七、九二九、〇〇〇磅に増加し一九二五年には六、四一〇、〇〇〇磅となれり、輸出先は米國、加奈陀、濠洲、亞爾然丁、新西蘭、印度、伯刺西爾南阿、佛蘭西等にて何れも品等、形型、色彩等につき特有の要求を有し從て夫々の要求に適應する製品を供給するが爲め

各地の代理店を通じ、或は各地の顧客を歴訪しつゝあり、輸出の過半は美なる白色物を製出して食器及置物の如き體形、光澤、色彩、地合等に至りて優秀なるのみならず捺染土器の模様の如き天下獨歩の觀あり石版染亦能く發達し最近に至りては又滌艶瑤瑯の發達あり、他國の斯種製品と異にして尤も丈夫なり、大規模新式工場は他種工場に於て見ざる大量生産を行ひつゝありホテル用器具は殆んど世界到る所へ供給せられ其骨質磁器のごとき他國にて製造するものなし世の窯業製品中最清雅にして且優美なるものなるが材料は磁土チヤイナストーン及骨灰を主成分とし焼上は硝子質に近く窯業史上未聞の素地光澤色彩、肌理あり、ストーンは長石を原料とするもの、如し蓋し英國窯業は東洋の先進國たる過去の康熙乾隆の時代に近づかんとしつゝある也。

○カタンガのラヂウム鑛床

現時ラヂウム鑛産額の約八割は亞弗利加中部比耳義領コンゴのカタンガの所産であるが、同地方の地質は(一)片麻岩、雲母片岩、珪岩より成る一系統と、(二)多分水成岩の變質したものである、片岩珪岩類と、(三)石灰岩、白雲岩、圓礫岩より成るものとこの三系統があり、有名な銅鑛帶の東南端附近には、花崗岩や雲母閃長岩の侵入があつて、其附近の石灰質の岩石は非常に結晶質と爲り、透角閃石を生じ頁岩は絹雲母千枚岩と爲りて居る銅鑛床はこの片麻岩系の上に在りて、ラヂウムの原鑛ピツチブレンドは、脈狀を爲せる銅の硫化鑛と共に産する、尙種々含水ラヂウム鑛も産するが、是はピツチブレンドから變成

したものでらしい。銅鑛床の傾斜は北で、ラヂウム鑛床の傾斜は南へ二十度乃至四十五度であつて、花崗岩、片麻岩と關聯して居る。從來歐米諸國のラヂウム鑛床にはベグマタイト中に産し、岩漿の分化に因るものと、鑛脈狀のもの二様あるが、カタンガのは後者に屬する様である、此鑛床の開發以前は、ラヂウム鑛の主産地は、北米合衆國のユータ、コロラド二州で、臭化ラヂウムや鹽化ラヂウム一瓦の價が、約二十萬圓以上であつたのが、此カタンガの鑛床開發以來、約十四萬圓に低落したといふ事である、今後この大鑛床の開發が進むに従て一層の低落を來すであらう、是ラヂウム需要者の爲めに一大福音といふべきである。(石川)

(Mining Magazine, Vol. XXXIV, No. 4, Henry W. Turner 報文抄譯)

○錫蘭のモナザイト及イルメナイト

錫蘭島の西南並東北海岸に注ぐ河口附近には重き黒砂の堆積し居る地點多く數年前よりこれを研究したるに、この黒砂の成生原因は海中に存する石英屬岩石が南西モンスーン及北東モンスーンによる怒濤の爲破壊せられ海岸に堆積せるものにして、自然の浪によりて輕きは流失し重き黒砂のみ堆積されたる形といふべく其成分は Monazite Ilmenite Zircon の三鑛物を含む西南海岸はモナザイトを含む、二十%乃至四〇%に達し、白熱瓦斯マンテル製造に使用せらる、これの中にソリユームを含むこと多きによる、東北海岸の黒砂はイルメナイトに富む由なるが、モナザイト選鑛の際に副産物として生ず、從來

殆んど顧みられざりしがチタニウムを含む製鐵に供し得るに止まらず、酸化鉛作用として白ハエント製造に使用せらるゝ途開かれ現今價值はモザナイトを凌がんとしつゝありてイースターン州ツリンコマリ港の北方約四〇哩を距る海岸の埋藏量のみにも五百萬噸と稱せらるゝ、イルメナイトの市價は目下倫敦にて毎噸四磅(五四留比)なるにこの地方にての噸當生産費は最高二十八留比に過ぎず、同時に多量のモナザイト及ジルコン採集の利ありシルコンは不可銘性高きを以て坩堝製造に使用せられ米國にては毎噸二〇弗位の市價を唱へ居れり、蓋し錫蘭島に於ける注目すべき近來の産業なりといふべし

○世界新聞用紙産額

一九二五年度(單位噸)

米 國	一、五〇,〇〇〇	加 奈 陀	一、五三,〇〇〇
英 國	五七,〇〇〇	獨 逸	五〇,〇〇〇
日 本	三三,〇〇〇	瑞 典	三二,〇〇〇
芳 蘭	一六,〇〇〇	ノルウェー	一六,〇〇〇
新ファウン ドランド	五,〇〇〇	佛 國	五,〇〇〇
和 蘭	五,〇〇〇	メキシコ	三,〇〇〇
其他歐洲	三〇,〇〇〇	合 計	五,四四,〇〇〇

世界の新聞紙製造高五百四十萬噸の中米國と加奈陀二國で五割八分に達する、これ其材料であるパルプの本場であるからであるが就中加奈陀の近年の躍進は目覺しいもので本年度内に新に十八臺の機械を掲付け日産一、七二五噸を増加し在來

の機械と合せて一日六、三〇〇噸を産する其中五、五〇〇噸は米國に供給されるといふことである。

しかば、新聞紙の原料は何かといふに、其原料の二割は化學的に處理したパルプを用ひるが八割迄は單に木を機械的に纖維狀にした粗なパルプである、木材をパルプとするに當り化學的に處理すると化學的パルプ即纖維素となるが、機械的に處理すると粗パルプとなる、この方は藥品も入らず原料も無駄にならぬから、廉價である、主として新聞紙や包裝用紙に用ひらるゝのである。

○日本最古の茶樹

滋賀縣滋賀郡坂本村字坂本小字御草園に日本茶園といふ官幣大社日吉神社々有の茶樹がそれである、現在七株あつて、株の周圍四尺餘高さ七尺餘ある、もとは十三株あつた、何でも傳教大師が植えられたのだといふこと千百十數年を経たものと稱せらるゝ、果して然らば樺尾の明惠上人又は榮西禪師が茶を將來したよりもずっと古くなる事實はいかゞであらうか。

○ノヴォシビルスク市

本市は西シベリアの中央に位し西伯利亞鐵道のオビ河を横斷する地點に存す、もろゾガニコラエフスクと稱し、シベリア鐵道が一八九三年に建設せらるゝと共に河岸に一小村落を生じたるがはじめにて、一九〇三年人口一萬五千に達す、一九二五年十月シベリア地方なる行政區劃の首都となり本年二月改名す、現在人口約十萬なれども家屋は都市の形を備へてよりまだ幾何もならず赤街の外は概ね木造家屋なりとす氣候は大陸性にして夏は列氏十七

度八分、冬は○下十七度二分の平均温度也オビ河の交通ミシベリア線との兩大交通路がこの市をして今日あらしめたる原動力にしてトムスクの繁榮を奪ひ毎年定期大市場となれり、集散貨物中穀物、牛酪、肉類等を主要物とす、將來南シベリア線完成せば誠に「シベリアの市俄古」となるべき前途有望の市と稱せらる。

○黑河の事情

黑河は齊々哈爾の北方九百六十支里、暖暉の上流七十支里の地にあり、黑龍江を隔て、露領アラゴエンチエンスクと相對す、從て黑龍江の地方的中心は愛琿なりしも、市の發達に伴ひ黑河は其位置の上より急激に發達して經濟的勢力は愛琿よりこの地に移りやがて一九〇八年副都統府設けられ、一九一六年黑河道設置せられて、全く愛琿の位置を奪へり從つて對露輸出中繼地として發達したる所なれば現在のごとく露國との關係圓滿ならざる間は發展の見込なし、されども大正十二年前後より支那領黑龍江沿岸に金礦業勃發したるため其砂金採取人上流に一萬五六千人あり是等の需要する物資百萬元に上るを以て本市の生命は永續するものゝ如し、附近は肥沃なる黑土帯にして小麥の産あり又毛皮の取引多く且農牧に適すれども、人口稀薄にして其產出額は未だ有力なる因子たるを得ざる事情にあり、興安嶺の林木輸出港として將來有望なりと稱せらる。

○支那山東省の麥稈眞田

今を去る六十餘年前福建省にて水師營の制帽を編製せしに始まり軍隊用より漸次地方民の常服として普及し南支那より此に及びしが、南支の麥稈は

粗大にして皮堅く製作に不適なるに北支那こに山東は氣候寒暑の變化南支那の如く急激ならざるを以て麥稈の質軟かく且色澤ありて製作容易なるに加へて勞働力豊富なるがために自から支那第一の麥稈眞田産地となり、青島の開發以來其海外に輸出せらるゝもの支那第一と稱せしが、大戦中不振の中に陥入りし間に天津に其地位を奪はるゝに至れり、されども省内にて産する麥稈眞田は年々數萬箱の多きに上るが故に、青島も漸く其位置を回復すべく大正十四年には二四、七四六擔一、七五九、四八〇兩を輸出するに至れり、産地の尤も有名なるを山東省内萊州府沙河鎮といひ、日本に輸入さるゝ量尤も多額に上る。

○比律賓に於けるカボツクとゴム

比島に於ける

カボツク棉は其將來有望なりと考へらるゝ、この棉は只に蒲團用の充填物としてのみならず浮揚力と耐水力につき、コルク以上の效力を有するを以て世界の需要益々盛んなるに不拘其唯一の輸出國たる爪哇は已に其最大產出限度に達したれば比島内務省行政部はこの際この木棉の栽培を全島に奨励せんとすると同時にミンダナオ島及其近接島に於て護膜樹栽培を計劃し居れり、この地域にはゴム栽培に適する地積百五十萬エーカーに達し、一年約二十萬噸を生産する見込なるが、ヒリッピン人にしてこゝに移住するを好むもの少きが故に支那人勞働の輸入を許容せんと考ふるものあり、然れども比律賓議會はこのミンダナオ島未開墾地の取扱に關して開放的ならざるものゝ如し。

○ウクライナ共和國

ウクライナ共和國は革命前小露西亞と稱せられ黒土帯の地として有名にして口碑に、種を播くかはりに砂をまき、神の加護あらば一年の終りにはパンが出来ると云ふ諺あるによりて以て其肥えたるを知るべし故に歐露の穀倉と稱せらる、現今ソヴィエト聯邦の一聯盟國として全聯邦に對し最重大なる經濟的意義を有す、面積は四萬三千二百二十萬方呎、人口二千七百六十萬、其密度一平方呎につき六十四名弱、全聯邦平均六人強に比すれば露國の中にも稠密の部なり。

民族はウクライナ人大半を占め農業漁業狩獵業に従事せるもの七四・八%工業に従ふもの九・二%されば農業國と云ふべく革命後復興の度も農業尤も早く小麥大麥甜菜糖を主要農作物とす、黒土をチエルノジヨームといひ其厚さ屢々一米にも達し腐蝕土を多量に含む爲獨得の色あり、腐蝕土の作用にて植物をして容易に礦物性の養分を吸收せしめ、之を同化して根により吸收し得べき榮養分を生ぜしむ、これ菌類の發生と地下水の都合よき循環によるものなるが、休耕する時尤も都合よきも人口増加と共に休耕地減少するを以て今後は科學的經營の必要増大せり、最近一九二二年の穀類收穫高は六三七、〇〇〇、〇〇〇布度に上り、家畜も亦多し、石炭鐵を産する爲めこれに關する工業盛にしてエカテリノスラフスカヤの製鐵業尤も有名也、鐵鑛は主としてクリボイログにあり全露國産の六割五分を占めドニエプル川の水運によりドネツ産出の石炭を得て加工するに適す、ドネツ炭田の延長は約三五〇露

里に亘り幅員は五〇乃至一五〇の露里の廣さあり、ヒーター大帝は曰くドネツ炭は朕之を使用せざれども朕の子孫をして之を使用せしむべしと、以て其由來の古きを知るべし、甜菜製糖業も近年復興の氣運に向ひ其生産額獨塊二國につき一九一二年には二百萬噸の産あり、ソヴィエト聯邦は目下全力を盡くしてウクライナの産業の發達に努力しつゝ、ありて一七九四年カザリン二世の設立せるオデッサ港をへて外國との通商亦甚だ盛なり、我國のごとき大正十年以降露領アシアへは日本より輸出入額百萬圓を下らざる狀況にあればウクライナと本邦との關係も漸く注目すべき勢にあり、勞農露國と修好條約を締結したる上は本邦對黑海貿易通商地の一としてウクライナの事情を明にするは刻下の急務なりと云ふべし。

○西班牙の面積と人口

西國の全面積は五〇八、二〇五方呎（一九六、二二五方哩）、一九二二年の耕地、山岳地、不毛地別面積左の如し。

耕地 一九、三三、五八六ヘクタール、高原山岳地 二五、三八五、〇〇、

都市、道路、鐵道 二、〇〇、五八六、不毛地 三、八五、〇〇、

合計 五五、五二、六六六ヘクタール

羅馬帝政時代に人口五千萬と稱せられたるも其後ローマ兵の歸還ムール人の放逐等に因り漸次減少して、一五九四年には僅々八百萬を算するに過ぎざりしが一九二〇年に全人口二百萬、内男一千萬女一千百萬となれり、然れども人口増加率は僅に千分六に過ぎず、佛國と共に人口増加の尤も少き國なり、これ死亡率の高きと移住するもの多き結果にして人口密

度一方軒四十二人、百人以上の所はビスカヤ、バルセロナ、ギブスコア、マドリッド、及ポンテベドラの五州に止まり一般に海岸地方は人口稠密なるも奥地高原地は人烟稀なり、而して人口の大部分は田園人口にして、都會人口は四百萬に止まりマドリッドの七十三萬、バルセロナの七十萬を始め十萬以上の都會九市あるのみ、かく稀薄なる人口密度の國なれば移民の必要なきが如くなれども、實に國情を見るに其然らざる所以あり、蓋し西國は國土の大部分は礫确の荒地、砂原にして天惠薄く、土地所有權は少數の大地主に屬し、社會の中堅たる自作農は殆ど皆無なり、而も製造工業比較的發達せざるが故に人口の都會集中困難なれば一般の勞働階級者は、結局地方豪族に倚りて衣食するの已むを得ざる勢にあるが爲め青年氣銳の士は相競ふて海外に移住す、而して其出稼地は主として南米大陸なり年々六萬人内外を渡航せしめアルゼンチン、キユバに趣くもの多く何れも年平均三萬人乃至二萬人に上る、勿論この數に應じて年々歸國するものも亦少からず、

近時拉丁亞米利加聯合運動の起るや西班牙に於ても昔日の富強を追懷し、同時にアングロサクソン今日の繁榮を妬視するに共に、シブラルタルの占領と米西戦争との結果に對する敵愾心を刺激し西班牙と拉丁系諸國との關係は本能的に親善をしめし國際聯盟會議に於ても、屢々協同的態度を持し相互扶助の事實を示めすに至れり、かくて從來兎角融和をかきし隣邦葡國との關係を改善し、葡國が南米に有する唯一の舊植民地たる佛刺西爾に替へて自然に西班牙に對する感情漸次濃厚な

加へ、同國に移住せる百萬の西班牙人も住心地よくなれりといふ。

○伊太利の大理石

伊國大理石礦脈中有名なるものは、Carrara 地方にして歴史的にも産額數量に於ても亦大理石の品質よりするも、他地方の大理石に勝る、然るに該地方の大理石は白色のものを主とするを以て本邦當業者の如き色物が必要とする場合には興味なし、Carrara を基點として南部に走る礦脈中には諸所に色物を産す、即 Massa, Seravezza 及 Pietrasanta 等の地には、地は白色にして灰紫の縞あるものあり或は角礫性を帶ぶるもの、鼠色等のものを産す、Spezia 州地方はブラックゴールドなる大理石の產地として有名なるが此大理石は黒地に金色の縞あり、産出量少きも模様之美を以て稱せらる。Genoa 州地方には又黃色大理石を産す色彩尤も秀で而かも産出少きが故に價格最も高く sciallo di Siena は石の生地及色合尤も卓絶し黃色大理石の白眉と稱せらる、Corino は濃青地に白色の縞ある大理石を出し Verde d'Alpi と稱せらる Brescia 州は乳白色の大理石產地として有名なりこれら諸種の色物は一米立方にて伊貨三千乃至四千五百利に達するものあり、ゼノアを輸出港とす。ペロナ及シヤンボ地方にも色物大理石の産出あり品位や、劣るが故に價格一米立方にて伊貨千利にすぎず、ベニス港より輸出せらる。黃色赤色、薔薇色、淡綠色等種々ありて我國に輸入せらる、もの多し、但し大理石の一立方米は重き三噸を普通とし運賃は噸數にて見積りせらるといふ。

○南米ウルガイ

南米の一小邦たるウルガイ共和国は面積七二、一七二方哩、我日本の本土を除きたる四國、九州、北海道、千島、琉球等の面積を合したるものにひそしく、人口は百六十四萬人なれば東京市人口中より深川、小石川兩區の人口を控除したるものに當る以て其密度の薄きを知るべし土地低平にして北部山地と雖も海拔二千呎を越ゆるものなく土地肥沃なれば農牧に適す、氣候は世界に於ける最健康地にして大西洋の軟風は夏季の熱を緩和し冬季に於ても平均五十五度を下らず、牧畜を以て第一の産業とし牛八、四三一、六一三頭、羊一四、四四三、三四一頭と稱せらる馬及豚駝鳥等の數亦多し、農耕の業之につぎ、小麥の耕作地三四四、一〇八町に上る、葡萄の栽培も亦見込あり、鑛産の中大理石其他石材の有量なるあり、將來有望なる國土なれども、日本人の移住者は未だ一人もなきなり。

○世界の自動車數(登録せられたる)

	一九二五年一月一日	一九二六年一月一日
英國	四五、五七九	五七、五五二
獨逸	一三〇、六三〇	二六、八元
佛國	一〇三、〇〇〇	一三〇、〇〇〇
米國	二六、八五〇	一九、六四〇
濠洲	五、〇〇〇	七、〇〇〇
伊國	五、〇〇〇	七、〇〇〇
白耳義	二五、四〇〇	二八、四〇〇
印度	一三、八〇〇	一四、〇〇〇

雜報

日本	支那	其他	合計
七〇、五	一、〇〇〇	一九、〇六四	一、一〇三、八六五
一一、〇三一	一、一五〇	一二四、五〇一	一、四五、〇一〇

○世界の葡萄産額の割合 (百分比)

佛國	五、一	伊太利	二、七	西班牙	三、〇
アルバニア	五、二	アルゼンチン	三、六	ルーマニア	三、四
葡萄牙	二、九	スロヴェニア	一、六	希臘	一、三
智利	一、二	獨逸	一、〇	ハンガリー	〇、八
ブルガリア	〇、七	チュニス	〇、五	伯國	〇、四
濠洲	〇、四	南阿	〇、三	瑞西	〇、二
ウルグアイ	〇、二	オーストリア	〇、二	其他	一、一

蓋し葡萄は佛、伊、西の三地中海岸國を本場とし其他アルバニア、ギリシア、スロヴェニア、チュニス等其沿岸地方に産するもの多しと雖も近時アルゼンチンメンドサ州に於て、小麥、亞麻、棉花につぐ重要農産物となり其醸造業も大に進歩し一九二五年には醸造所五千ヶ所葡萄酒五、五二一、三七一ヘクトリツトルを産するに至れりといふ。

○江戸の火事

天正十八年八月徳川氏入國以來大正十四年まで三百三十六年間に、東京市の火災度數は幾萬回あつたかもしれぬが、大火と稱するものは百六回の多きにのぼる、そのうち明暦三年、寛文八年、享保六年、文化三年、明和九年、文政十二年、安政二年等の大火は特に有名である。火事の多かつた月は、百六回に就て、一月八回、二月二十

一回、三月三十三回、四月十二回、五月五回、九月二回、十月三回、十一月五回、十二月十四回で、三月十二月の冬季尤も多く六、七、八の各月は少い。

明治七年から大正十四年までの火災季節は、總出火度数二萬二千四百六十四回の中

十二月 二千九百七回

二月 二千七百八回

一月 二千六百七十九回

三月 二千五百八十回

四月 二千五百五十四回

の順に多く尤も少いのは六月の千百三十二回である、やはり火事は冬季のものである、これは原因としては失火の場合が尤も多いが、被害については冬季の風のはげしささ木造屋といふことも併せて云へるべきことであらう。

大正十年より同十四年迄の度数三千三百十三回の中失火二千六百六十七回、放火二百三十回、不審火四百十六回であるが、その原因は煙突尤も多く、電気、吸殻、炬燵、行火、竈火鉢、揮發油、ガソリン等の順序になつてゐる（東京市統計課）

○大正十四年十月一日國勢調査の結果による

日本内地人口(二)

神奈川縣

一、四六、七五三

横濱市

四〇五、八八八

横須賀市

九六、五五一

川崎市

五四、六三三

久良岐郡

二〇、三八

橘樹郡

一五二、四四

保土ヶ谷町

二八、五〇

鶴見町

五四、一三三

第三號

三〇

田島町

二〇、〇六八

中原町

八、三三八

各村合計

二六、九六六

都築郡

四、九六六

三浦郡

二六、二七

田浦町

三〇、四七

浦賀町

一八、六五

葉山町

八、五三

逗子町

三、〇六

三崎町

二、五七

各村合計

五、五三

鎌倉郡

七、二九

鎌倉町

三、〇三

戸塚町

五、四四

各村合計

一、八〇

高座郡

二九、五七

藤澤町

三、五二

茅ヶ崎町

二、八〇

各村合計

七、一四

中 郡

二〇、〇七

大磯町

九、七三

平塚町

三、七六

伊勢原町

四、二〇

大山町

一、六八

七〇

秦野町

二〇、九三

各村合計

八、〇〇七

足柄上郡

四、八八

松田町

四、〇七

各村合計

四、〇一

足柄下郡

九、〇五

小田原町

二五、三〇

國府津町

四、八二

箱根町

四、八三

各村合計

六、四九

愛甲郡

四、〇五

厚木町

五、〇九

各村合計

五、五九

津久井郡

三、八〇

小原町

五、〇一

與瀬町

一、四七

吉野町

八、〇〇

各村合計

二八、二五

兵庫縣

二、四四、五七

神戸市

六四、三三

姫路市

五、七三

尼崎市

四、四二

明石市

三、二四

西宮市

三、四七

地球

第六卷

第三號

三三

七二

長崎市	一八、〇七一
佐世保市	五、三八五
西彼杵郡	一七、六五五
茂木町	一〇、一六六
各村合計	一六、九七九
東彼杵郡	九、〇〇〇
大村町	九、六七七
早岐町	五、七二五
津村合計	八、六六六
北高來郡	七、四二五
諫早町	一五、四三三
各村合計	五、〇一九
南高來郡	一六、六六八
島原町	一、七五五
小濱町	九、三二九
各村合計	一六、六六六
北松浦郡	一六、九三三
平戸町	一三、六三三
各村合計	一五、五三三
南松浦郡	一〇、五九九
福江町	九、八五二
富江町	三、七〇一
各村合計	八、九五六
壹岐郡	五、三三三

武生水町	四、四三三
各村合計	五、三三一
對馬島	五、〇四九
嚴原町	九、五三三
各村合計	四、五七七
新潟縣	一、八四九、〇七
新潟市	一〇、四六一
長岡市	五、五六一
高田市	三、〇八七
北蒲原郡	一五、三三三
水原町	八、九八八
葛塚町	七、〇八八
新發田町	二〇、三三三
中條町	九、三三〇
各村合計	一四、六二〇
中蒲原郡	一六、二六五
白根町	七、五三三
小須戸町	八、七三三
新津町	一五、八〇〇
五泉町	二、九三三
村松町	八、四二二
龜田町	三、九四四
各村合計	一三、八三三
西蒲原郡	一五、六三三

地藏堂町	三、九三三
吉田町	六、四三三
卷町	六、七七七
燕町	五、五三三
各村合計	一三、〇二九
南蒲原郡	一五、〇四六
三條町	二七、八六〇
加茂町	一、九二四
今町	五、九九〇
見附町	一〇、〇一八
各村合計	七、三三三
東蒲原郡	二四、一四一
津川町	三、三三三
各村合計	二〇、七二〇
三島郡	八、七二二
興坂町	五、九四〇
出雲崎町	六、六六六
寺泊町	二、〇九〇
各村合計	六、七五五
古志郡	八、七三三
棚尾町	八、六六六
各村合計	八、〇六二
北魚沼郡	七、四三三
小千谷町	八、四三三

小出町	六、五三三
各村合計	六、二六六
南魚沼郡	五、五五五
鹽澤町	七、五五五
六日町	七、二二二
各村合計	五、九四〇
中魚沼郡	七、九四〇
十日町	八、五五五
各村合計	七、三三三
刈羽郡	一三、〇〇〇
柏崎町	二、三三三
石地町	三、四四四
高濱町	二、四六六
各村合計	九、〇三三
東頸城郡	五、七五五
中頸城郡	一七、二六六
新井町	七、五五五
直江津町	三、五五五
各村合計	一五、五五五
西頸城郡	五、四四四
名立町	二、〇九九
越前町	三、八〇〇
糸魚川町	八、五五五
各村合計	五、〇三三

岩船町	七、三二	相川町	七、一四六
岩船町	三、九六九	澤根町	三、三九八
瀬波町	二、〇八一	河原田町	二、三三六
村上町	八、八二三	小木町	五、六七〇
村上本町	二、二五五	兩津町	六、六六六
各村合計	六〇、〇五三	各村合計	八、一四四
佐渡郡	一〇六、六八		

質疑應答

問 廬山 (文檢)

答 太平御覽四一に曰く山高二千三百六十丈、周廻二千五百里東南至十二里張翮鑑滄陽記云、匡俗周武王時、人厭逃微眇、結廬此山後登仙空廬尚在、弟子等呼爲廬山、又名匡山、又按豫章記、匡俗字孝父、共鄱陽令吳芮、佐漢定天下、封俗鄱陽廬君、兄弟七人、皆好道術、遂寓精爽於洞庭之山、故世謂廬山、漢武南巡親見神靈、封俗爲文明公、一云匡俗漢人、廬山は山東の泰山と共に支那の名山中の名山である江西省鄱陽湖の出口楊子江畔の湖口と九江と凡三角形をなした地點に聳えてゐる一帯の花崗岩で或は海拔三千五百尺といひ、九江より十五哩、岩を鑿ち溪に橋し肩輿を通じて今は外人の一大避暑地であるが、上文を見れば昔匡俗といつた道術に秀でた七人兄弟が廬を此に結んでゐたところで、周代からの名山である、或は匡は周の人でなく漢初の人だとも云ふてゐるが朱

質疑應答

子の白鹿洞書院をはじめ、慧深法師の開基である東林寺、惠永法師の開いた西林寺、李白の詩に名高い五老峰、清小納言で名高い香爐峰などの名所舊蹟にさむのをみて、唐宋時代天下の道學者佛教徒の淵藪であつたことがわかる、こゝが今日のやうに避暑地になつたのは、九江に居つた宣教師エドワードリツツルが、夏期、寺院をかつて避暑したに始まり、その中に牯嶺といふ一帯の荒廢地を租借することを考へ、一八九四年からその經營に着手した、目下二百六十軒からの別荘が建つてゐて南支隨一の名勝となつた、九江から蓮花塘まで約八哩、一人一弗位で自動車にのれる、蓮花塘から牯嶺まで七哩を四人擔ぎの山轎子にのれば四時間で登れるこの運賃二弗、九江から約四時間三弗でこの避暑地に達し得られる。學團員の一遊をすゝめる。但廬山一帯三百の寺院の址を尋ねんとすれば、それは又特別のことで常盤博士に教をうけるがい。

問 膠州堆 (奈良山本史郎)

答 これを山東の膠州と間違つてはいけない、地球第四卷第一號、日本近海の深さ(二)に於て詳述せる通り日本海の南方に於て北緯三〇度二、東經一三六度七附近にある淺堆にして、發見せる艦船の名に因みてかくよべり、この海面下の孤立せる島の頂は深さ七一〇米にして、周圍が四千米以上の深海に存する海丘である。(藤田)

問 ワラキア Wallachia (文檢)

答 ワラキアと云へば古い歐洲でダニユア河畔の公國で